

ウェブの可能性を最大限に導き出すために 標準化組織の全貌

Leading the Web to Its Full Potential...

W3Cスペース

URL <http://www.w3.org/>

② W3Cの標準策定プロセス

text: 平川泰之

W3C Asian Communications Officer / 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科プロジェクト助手

ウェブの相互運用性を 確保するために

W3Cはその設立時から、競争関係にある関係者同士によるオープンな議論や研究開発の場を提供してきました。その結果を集約し、ウェブの発展と相互運用性を確保するために提供されるのが「W3C勧告(Recommendation)」と呼ばれる技術仕様です。

W3C勧告は業界やウェブコミュニティの間では広くウェブ標準として認知されています。各勧告はW3Cのワーキンググループ(WG)によって策定され、W3C会員によって審査された安定した仕様です。WGによって形成された業界の合意を明確にしたものと言えるでしょう。

W3Cでは2004年10月末現在で、合計80本にも上るW3C勧告を公開しています。この中には、さまざまな技術への応用が進むXMLやXMLスキーマ、ウェブに関わる皆さんがよく耳にするHTMLやXHTML、あるいはCSS、さらには近年急速に注目を集めるセマンティックウェブの基盤技術となるRDFやOWLなど、多岐にわたるウェブ標準が含まれています。ちなみに最初のW3C勧告はHTMLやXMLではなく、1996年10月1日に公開された画像形式のPNGだったことは意外に知られていない事実かもしれません。

W3C勧告への道 Recommendation Track

W3Cではさまざまな技術文書を公開しています。これにはW3C勧告になり得るものとそうでないものがあります。W3C勧告になり得る文書についてはRecommendation Trackと呼ばれる手順に基づいて策定が進められます。

策定される仕様は、次の6つの段階に分けて公開されます。各段階では、会員からだけでなく一般からも寄せられる意見に基づいて仕様が改善されます。

1. 公開草案初版(First Public Working Draft): 仕様の策定において最初に公開される原案で、標準化に向けた策定作業が開始されたことをW3C内外に告知する役割を担います。特に合意や技術的な質は要求されませんが、特許関連の調査期間が設定されます。
2. 草案(Working Draft): 公開草案初版以降、最終草案までの間に公開される更新版です。ほかの段階から差し戻されてくる場合もあります。なお、必ずしもすべての草案が勧告になるとは限りません。
3. 最終草案(Last Call Working Draft): 最終段階の草案です。技術的な検討に基づき、仕様の基本部分が確定されます。通常3週間の審査期間が設定され、必要な要件を満たせば、勧告候補もしくは勧告案に進みます。逆に草案に差し戻される場合もあります。
4. 勧告候補(Candidate Recommendation): 仕様が要求を満たしているか、広く一般に実装を呼び掛け、実装および相互運用試験を行います。必要な要件を満たせば勧告案に進み、そうでなければ草案に差し戻される場合もあります。
5. 勧告案(Proposed Recommendation): W3C会員全体による審査が実施されます。審査期間は最低でも4週間設定されます。会員からの合意が得られない場合は、勧告候補または草案に差し戻されます。

6. 勧告(Recommendation): W3C 会員による審査を経た後、最終的に技術統括責任者の Tim Berners-Lee の承諾を得て、勧告として公開されます。

原則として一度勧告になった仕様の変更は行われませんが、間違いなどを修正するために勧告修正案(Proposed Edited Recommendation)が公開されることがあります。この場合も審査と合意に基づく手続きを経て、更新版の勧告が公開されます。なお新たに機能を追加したり、既存の機能を修正したり更新したりする場合は、新しい仕様として Recommendation Track に従って策定しなおされることになります。

W3C 勧告以外の技術文書や W3C 技術文書の翻訳集もある

W3C ではこのほか、W3C 勧告にはなり得ない文書として次の3種類を公開しています。これらは標準技術ではありませんが W3C 勧告を補足したり新技術策定のきっかけになることもあります。

・WG ノート(WG Note): WG によってまとめられた技術的なアイデアで、勧告の運

用に関するものなどがあります。

・スタッフ提案(Team Submission): W3C のスタッフによって提案された技術的なアイデアです。勧告を策定する上での問題点や、それに対する解決案、あるいは新しい技術分野に対する提案など、内容は多岐にわたります。

・会員提案(Member Submission): W3C 会員組織によって提出された技術仕様や技術提案です。必ずしもそうなるとは限りませんが、会員提案をもとに勧告化が進む技術もあります。携帯電話を含む携帯機器向けの勧告である XHTML Basic は、日本会員からの提案が元になっています。

W3C ではさらに、ボランティアの方々によって翻訳された文書を参考訳として、W3C のページからリンクして提供しています。2004 年 10 月末現在、世界中の 44 言語にもおよぶ翻訳がまとめられています。

参考

W3C 勧告及び技術仕様

<http://www.w3.org/TR/>

W3C 文書の翻訳集

<http://www.w3.org/Consortium/Translation/>

W3C 会員提案

<http://www.w3.org/Submission/>



今月のホットワーキンググループ

HTML ワーキンググループ

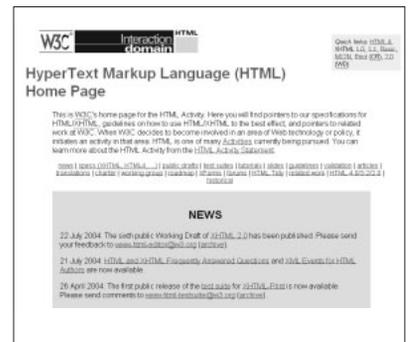
<http://www.w3.org/MarkUp/>

ウェブと言えば何はなくとも HTML と HTTP です。このうち HTML の最新仕様である XHTML の策定を中心に活動を進めているのが HTML ワーキンググループ(HTML WG)です。現在 11 組織の W3C 会員が WG に参加しており、慶應ホストの石川雅康(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科プロジェクト専任講師)が担当しています。

HTML WG がこれまでに策定したおもな W3C 勧告には、HTML 4.01/4.0/3.2、そして HTML 4.01 の後継標準仕様である、HTML を XML ベースに定義し直した XHTML 1.0/1.1 や XHTML Basic などが

あります。また HTML のフォームを大幅に改良し、XML ベースに定義し直した XForms 1.0 の策定にも協力しました。

一方、HTML WG で現在策定中のおもな技術仕様には、XHTML の最新版となる XHTML 2.0 や HTML のフレームを置き換える XFrames、あるいは携帯機器などからも含む、ウェブページの簡易印刷を実現する XHTML-Print などがあります。XHTML 2.0 では、ウェブページだけでなく、一般的な文書のマークアップにも利用できるようにさまざまに改良される予定です。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp